

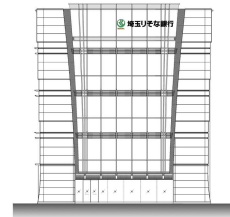
# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2016年版, CASBEE 建築環境2016年版

|使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	埼玉りそな銀行熊谷支店新築工事	階数	地上4F
建設地	熊谷市本町一丁目 96番、97番、98	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,480 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年5月 予定	評価の実施日	2017年4月21日
敷地面積	2,060 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社大栄建築事務所
建築面積	878 m <sup>2</sup>	確認日	2017年4月21日
延床面積	3,471 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社大栄建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・138)

②建築物の取組み: 91%

③上記+②以外の: 91%

④上記+: 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	可能な限り緑地を配し、景観に配慮した。	その他 0
Q1 室内環境	内装材はF☆☆☆☆を使用することで配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 適切な緑地づくりに配慮した。
LR1 エネルギー	屋根に断熱材を設け、建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 LCCO <sub>2</sub> 排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。
Q2 サービス性能	電源設備の浸水による停電を回避する対策を講じた。	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	埼玉りそな銀行熊谷支店新築工事	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.3	+	2.6	=	5.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.3
<配慮した内容を記述>			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			

: 入力欄

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS  
埼玉りそな銀行熊谷支店新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.0
1 音環境				3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35				3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50				
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38				
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.4	0.25				3.4
3.1 昼光利用				4.6	0.30				
1 昼光率		昼光率: 4.3%		5.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備		光ダクトからの昼光利用。		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				2.8	0.25				2.8
4.1 発生源対策				3.0	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				2.3	0.30				
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御				3.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				3.3
1 機能性				3.5	0.40				3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40				
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法移動円滑化基準を満たす		4.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30				
1 広さ感・景観		事務室の天井高: 3.00m以上、外部に面する窓を設置。		5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		更衣室に休憩スペースとして、畳敷き(計13畳)を行った。		4.0	0.33				
3 内装計画		基本計画の段階において、内観パースを作成した。		4.0	0.33				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.0	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30		-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	基準階階高: 4.8m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率: 0.176	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI <sub>m</sub> ]=0.82	<b>4.8</b>	0.20		-	<b>4.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		光ダクト及び、ライトシェルフによる、自然エネルギーの利用。	<b>4.0</b>	0.10		-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ]= 0.88	<b>2.6</b>	0.50		-	<b>2.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			3.0	-		-	
4.1	モニタリング		3.0	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1 節水		自動水洗、節水タイプの衛生器具を採用した。	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2概算値: 91%	<b>3.3</b>	0.33		-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐車施設設置義務条例を満たす計画とした。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックの項目の過半を満たしている。	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	